

クルーズ船 利尻島 沓形港に停泊

利尻町 まち環境整備課

沓形港は、日本最北の都市稚内から、南西へ約50kmを隔てた利尻島の西海岸に位置する地方港湾で、フェリーなどによる物資流通拠点や地域の基幹産業である水産業の基地として、重要な役割を担っています。

さらに、クルーズ船の寄港に際して利用されている新港第4岸壁(-7.5m)は、町内唯一の耐震強化岸壁で、離島生活の安全の確保のため、防災拠点としても重要な役割を担っております。

本港は、優良な漁場である武蔵堆に近接しており、大正10年に漁港としての建設が始まり漁船漁業の基地として発展してきましたが、当初は海難事故が後を絶たず、漁業機能の強化が主要目的であったと言われております。

戦後は経済の復興とともに、離島と本道を結ぶ物流拠点として整備が進められてきましたが、近年では日本海クルーズの寄港地としてクルーズ船が入港しており、平成27年度は7回のクルーズ船入港実績があります。



沓形港全景

●ぱしふいっくびいなす入港

平成28年6月17日の早朝、今年度第1号のクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」(26,596トン)が、沓形港に入港しました。

この日は生憎の曇り時々雨の空模様となりましたが、スムーズに沓形港新港第4岸壁に着岸しました。

平成28年度の沓形港最初のクルーズ船入港となった「ぱしふいっくびいなす」は、これまで何度も沓形

港に寄港してくれているクルーズ船で、本年度も4回の入港を予定していますが、6月17日はこれまでと違い、早朝に入港し、翌日正午に出港する夜間停泊のある寄港となっていました。

寄港地での1泊停泊は珍しいそうですが、利尻島や、礼文島の最北の島をゆっくりと観光できるスケジュールを取れることへのお客様の希望や停泊してもクルーズの日程、航路の調整を図ることのできる地理的好条件があり、今回の停泊が実現しました。

クルーズ船の入港に際しては毎回町を挙げて歓迎し、出迎えや「沓形港クルーズ船見送り隊」を中心としたお見送りを実施し、着岸した岸壁では地元の漁協や水産加工業者などが露店を出し、にぎわいのある港でのおもてなしを目指していますが、今回の停泊に際しては更に、夜間での交流イベントも企画されました。

午後6時30分から町の公式マスコット「りしりん」を前面に出し、PRも兼ねて「りしりん祭り」と題した、乗船客、クルー、地域住民との交流を目的としたイベントがスタートしました。

交流イベントの会場として停泊岸壁に特設ステアを設置し、地元中学生による太鼓演奏、島に伝わる伝統芸能「麒麟獅子の舞」披露、もちまき大会や島の特産品が当たる抽選会などが行われました。また、マスコットの「りしりん」を中心に乗客と住民が一緒に「りしりん音頭」を踊り交流を深めました。

祭りのフィナーレでは、「レーザーパフォーマンス」による船体のライトアップが行われ、会場は歓声と拍手に包まれました。



「沓形港クルーズ船見送り隊」による見送りの様子

●につぼん丸入港

平成 28 年 7 月 9 日 13 時ころ、クルーズ船「につぼん丸(22,472 トン)」は、予定より 1 時間遅れて杓形港新港第 4 岸壁に着岸しました。

この日のにつぼん丸は、今年 2 回目の入港で、予定では正午入港、翌朝 5 時に出港する夜間停泊となっていました。

この日の空模様は、前日からの雨が昼過ぎまで残る予報となっていましたので、予定している停泊イベントの開催も危ぶまれていました。また、海上も少しうねりがあり、入港も危ぶまれておりましたが、なんとか 1 時間遅れで無事入港してくれましたので、船長はじめクルーの皆さんに感謝です。

入港後、乗客の多くは岸壁に待機しているバスに乗りし島内観光に出かけましたが、岸壁では夕方から始まる今年 2 回目のクルーズ船歓迎イベント「りしりん祭り」の準備が、小雨の中進められていきました。

杓形港は丸い利尻島の西側に位置しており、島の中央にある利尻富士(利尻山：標高 2,121 メートル)により、この時季東寄りの風が吹く日は天候が良くなる傾向にあります。

この日は、午後から東寄りの風なるため、祭りのスタッフは天候の回復を祈りながら準備作業を進めていきました。

午後 6 時 30 分「りしりん祭り」がスタートし、恒例のもちまき大会や島の特産品が当たる抽選会などが行われました。また、利尻町観光大使のシンガーソングライター「流(ながれ)」さんのステージライブが行われ、会場を大いに盛り上げていただきました。

この日の歓迎イベントでも乗客、クルー、住民と一緒に「りしりん音頭」を踊りましたが、流れさんは「りしりん音頭」の作曲者であり、マスター音源



「りしりん祭り」の様子

の歌声も担当していただいているので、流さんの生の歌声での踊りで、会場は更に盛り上がりました。

●停泊イベントを終えて

杓形港の平成 28 年度のクルーズ船入港は 10 回予定され、「ばしふいっくびいなす」4 回、「につぼん丸」6 回となっており、入港回数としては、北海道の港湾では上位に数えられているようです。

クルーズ船の寄港には、町を挙げての誘致、おもてなしに心掛けてきている成果が少しずつ現れてきている感じですが、今回初めての経験となる停泊イベントの実施を通して、良かった点、改善する点を検証していく必要があるのも事実です。

乗客の多くのは、「一生に一度の利尻島の旅」かもしれないので、この旅を思い出に残る素晴らしいものにしていただくためのお手伝いをしているという自負を持って、心を込めたおもてなしを続けていくことが大切だと感じています。

今後も、町を挙げてクルーズ船の誘致を進めていきますが、入港回数の増はもちろんですが、船の数は現在 2 隻に留まっておりますので、地域の魅力発信、ポートセールスに努め、杓形港へ入港するクルーズ船の種類が増えるよう誘致を進めていきことも必要と考えています。



「につぼん丸」と定期船のカーフェリー

